

海に！町に！消防署の精鋭たち



救急隊員 消防士長

清水 早苗

私は、人の命を救う仕事に就くことを目指し、救急救命士の資格を取得し、今の職に就きました。

救急の仕事は、チームを組む、隊員一人一人が連携して行動します。お互いにあうんの呼吸で、カバーし合うことで人を救う行動が成り立つのです。

私は、体力的には男性に負けます。しかし、女性にしかできないこともあります。女性ならではの気遣いが必要なことや、時には女性の患者さんの肌に触れなければならないこと

もあります。そんなときは、私に対応することで、患者さんの気持ちを落ち着かせることができます。

私たちは平均時間約6分で現地に到着し、全力で救急活動を行います。しかし、命を救う上で一番大事なのは、初期対応。現場にいる人がどう対応をするかで、生死を大きく左右することがあるので、そんな状況にあった時は、今ある状況を焦らず、落ち着いて伝えてください。すでにそこから私たちとの連携プレーが始まっているのです。



消防隊員 消防司令補

出村 祥一郎

小学6年生の時に、能登島子ども消防クラブの初代会長を務めました。その活動で、消防士と接する機会が何度もあり、消防士になりたいと思いました。実際に仕事に就いてからは、助けた人やその周りの人からとても感謝され、さらにやりがいを感じています。

消防はチームで動きます。日頃からコミュニケーションを密にし、人間関係を大切にしながら業務にあたっています。また、非番の日は、七尾消防署から自宅へ帰る前に約1時間、消火

栓や防火水槽の位置確認をしたり、災害現場へ迅速に到着出来るよう、市内の地理であり得意でない地区を確認したりしています。

消防隊は火災になれば迅速に消火活動を行います。一番大切なことは火災を予防することだと思っています。火災は少しの油断で発生します。今まで、大切な命や財産を失う悲しい光景を現場で見してきました。たき火やたばこの火などの扱いには十分気をつけてください。



水難隊員 消防士長

春山 裕司郎

ができます。

①海岸の波打ち際から沖に向かってできる強い流れ（離岸流）の特徴を知りましょう。

②靴は浮力があります。

③溺れる人を見つけた場合、飛び込まないでください。二次災害につながります。周りにある浮く物をその人に投げて、隊員が来るまで待つてください。

私たちは全力で救助します。しかし、その事故を大きくしないためにも皆さんが一番身近な救助隊員なのです。



指令室員 消防副士長

百崎 暢人

指令室の担当になり1年2カ月。これまで、火災や救助の現場など、最前線で働いていたので、戸惑いもありました。しかし、指令室は市民からの連絡が一番入り、その内容を即座に判断し、現場に向かう消防隊員や救急隊員に指示をするという大事な役割を担っていることを今は実感しています。

いつ連絡が入るか分からないことや、24時間、指令室から離れることができないことなど、常に緊張感を感じて仕事をしています。

心掛けていることは、冷静沈

着でいること。相手は、慌てて連絡してきます。人によって度合いが違いますが、確実な現場の状況をつかむために、機械的な話し方はせず、冷静に相手を思いやりながら聞き取るようにしています。

もし、皆さんが119番に電話することになった場合、一度冷静になってから連絡してください。確実な内容を伝えてもらえれば、私たちも確実な仕事をすることが出来ます。

消防車
出動!

通報から2分

出動する消防士たちは、消防ポンプ車にある無線で指令室の消防士と、詳細な場所や状況を確認する。準備が整ったところで出動!

出動準備室から
消防車へと飛び
出す消防士たち

通報から1分20秒後

着替え終わった消防士たちは、指令室から出動準備室に送られたファクスで場所を確認しながら、消防ポンプ車へ乗り込む。この間も指令室は状況確認などをするため、通報者と話をしている。

防火服に
着替える
消防士たち

通報から40秒後

消防士たちが素早く着られるように工夫して準備されている消防服に迅速に着替える。

駆け降りる
消防士たち

通報から30秒後

出動アナウンスが鳴り響く中、消防士は、その時にしていた業務を取り止め、素早く出動準備に取り掛かる。

市民から
119番通報

通報からスタート!

市民からの119番通報に、指令室の消防士が対応。通報が入るなり、署内にアナウンスが鳴り響き、消防士は即、出動準備に取り掛かる。

どんな時も

2分で出動!

迅速に対応する

消防士たち!

この速さは
訓練の賜物!

プロフェッショナルたちの使命感と努力で地域が守られています。